普及活動情勢報告（令和元年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

経営の安定、生産技術の向上にむけて　～中山間農業複合経営拠点実行フォロー会議の開催～

アグリ事業戦略サポートセンターから助言を受ける生産者ら

10月1日、（一社）四万十農産事務所で、当法人の事業戦略実行フォロー会議が開催され、生産者など13名が参加しました。

アグリ事業戦略サポートセンターから、「経営を安定させるためには経営側と生産側との話を一致させる必要があり、定期的に資金繰りをチェックしていくことが重要である」と助言がありました。

毎月の資金繰りや生産状況について、支援チーム員と情報共有するための会を開催していくことを計画しました。

普及所は、今後も支援機関と連携し、複合経営拠点法人の経営安定や、事業戦略の実現に向け支援していきます。

新技術の普及とGAPの推進に向けて　～JA高知県四万十ハウスミョウガ部会総会の開催～

ハウスミョウガ部会総会の様子

10月10日、JA高知県興津支所で、JA高知県四万十ハウスミョウガ部会総会が行われ、生産者など41名が参加しました。

普及所からは、9月下旬～10月上旬に実証した低濃度エタノール土壌還元消毒の経過報告や、GAPの取組などについて説明しました。

生産者は、根茎腐敗病などの難防除土壌病害対策として低濃度エタノール土壌還元消毒に期待している様子でした。

普及所は、今後もJA高知県と連携し、新技術の普及や、GAPの推進に向け支援していきます。

見て、聞いて、触れてナットク！　～はちきん農業大学高南地区講座の開催～

病害を説明する普及指導員

10月3日、普及所で今年度第2回目の高南地区講座(農業基礎講座)を開催し、女性農業者や新規就農者ら12名が参加しました。

普及所は、作物の病害虫の診断や対策、農薬の安全使用について講義を行いました。スライド等での説明後、ショウガの病原菌を実際に顕微鏡で見てもらい、病害診断の方法を体験してもらいました。

受講生からは「病気の説明がわかりやすくて良かった」「天敵と薬剤の使い分けが興味深かった」などの感想が聞かれました。

普及所は、今後も地区講座等を通じて、女性農業者、新規就農者の農力向上を支援していきます。

シシトウの出荷調製作業を体験　～四万十町農福連携推進協議会農作業体験研修の開催～

シシトウの選別とパック詰め作業を行う参加者

9月24日、四万十町十和地域のシシトウ生産者の出荷調製場で、四万十町農福連携推進協議会が、選別・出荷調製作業の体験研修を開催し、就労継続支援事業所の職員及び利用者計4名が参加しました。

参加した就労継続支援事業所施設長からは「施設の利用者の仕事を確保するために県外からも業務委託を受けている。地元のために仕事ができればうれしい」と感想が聞かれました。

JA高知県北幡営農センターは、来年度の出荷から、選別出荷調製作業を就労継続支援事業所に委託することを検討しています。

普及所は、今後も地域内にある就労継続支援事業所と連携し、農福連携を推進していきます。

サトイモの出荷に向けて　～JA高知県四万十サトイモ生産部会出荷検討会の開催～

出荷基準の説明を受ける生産者

10月1日、JA高知県四万十出荷場で、JA高知県四万十里芋生産部会出荷検討会が開催され、生産者17名が参加しました。

部会長は、10月からの出荷に向け、サトイモの親芋、子芋、孫芋の選別方法や出荷等級など、出荷調製を円滑に行うための方法や規格を指導しました。

普及所は、本年度増収技術として取り組んできたかん水、施肥方法等を報告し、栽培技術の振り返りを行いました。

生産者からは、「部会員が毎年増えており、今後も部会員を増やし産地化を進めたい」といった意見が出ました。

普及所は、JA高知県と連携し、有望品目であるサトイモの産地化を推進します。